

福岡都心クール構想

福岡市は、都心部の風を利用してヒートアイランド現象を緩和する「クールスポット」を生み出そうという構想を進めている。市から依頼された九州大の内田孝紀准教授（風工学）が同市の天神地区や博多駅周辺の風の動きをコンピュータで解析。植栽で冷やされた風がビル街に流れ込み、辺りの温度を下げる効果が確認できたという。ヒートアイランド現象の緩和は、節電にもつながることから、今後の市の街づくりの進め方が注目される。（帆足英夫）

市が九大准教授に依頼

風の流れ 街づくりに活用



天神地区の8月の想定気温

31.9
32.1
34.1
36.1
38.1
40.1
42.1
44°C

福岡市は2003年7月

の博多区奈良屋町の博多小

10月、市内67か所の気温を測定した。都市部と郊外の寒暖差は同9月5日午前5時

に最も大きく、市中心部の温度は全調査地点の平均値

より4度高く、市はヒートアイランド現象の発生が確認できたとしている。

この現象を緩和し、クールスポットをつくり出すために、風の流れが重要になる。市は昨年度、約440万円の予算で内田准教授に調査を委託。内田准教授は、天神地区と博多駅地区のそれぞれ、1か四方のエリアを対象に8月の日中を想定したシミュレーション（模擬実験）を実施した。

建物の高さと形状、道路舗装や芝生の有無、樹木の高さ、日射量などのデータを入力。風の流れを解析するとともに、風の影響で地表付近の温度がどのように変わるのかも再現した。

福岡の街には、年間を通して北北西からの風が吹くことが多い。解析結果によると、天神中央公園の南側では、同公園の植栽部分を通過して冷やされた風が流れ込み、本来なら40度近くになる地表付近の気温が30度程度に、本来なら50度近

くなる地表温度が35度程度に下がること示された。植栽の冷却効果は公園だけでなく、周囲にも及んでいた。

また、狭いビル街では、入ってきた風が行き場を失って渦を巻くような動きをしていることが判明。周囲の地形や建物の形によって、風が入ってきた時より、出ていく時の方が速くなることも分かった。内田准教

授は「都心部の複雑な風の流れを把握することで、涼しい街づくりにつなげることができる」と話す。

同市の天神、博多両地区には、築30年以上で建て替えて時期を迎えるビルが多い。市都心再生課は「植栽で冷やされた風がビル街をうまく流れることなどを目指し、模擬実験の結果をビルの建て替えや緑地の配置に生かしたい」としている。

読売新聞夕刊
2012.7.10